

## もくじ

1. 特集 ヤマビルについて
2. 第4回活動 ~歩道修理と苗畑除草~の報告
3. 第6回活動 ~歩道修理~のご案内

# 特集 ヤマビルについて

8月の歩道修理の際、雨あがり温度・湿度共に高かったため、ヤマビルの洗礼を受けた方が何人かおりました。多くの方が関心を持っているヤマビルの生態と被害の防ぎ方について特集します。ヤマビルとのつきあい方を身につければ、より森林を楽しめるかも？

## ヤマビルってどんな動物？

ヤマビルは日本産ヒル類の中では唯一、陸に棲んでいます。秋田県から沖縄県まで広く分布しています。体長は成体で静止時に2~3cmで伸びると4~6cmになります。通常森林の落ち葉の下などに隠れており、人や動物の息(CO<sub>2</sub>)・振動・熱・においに反応し、体の前後にある吸盤で尺取り虫のように寄主に近寄ります。皮膚にたどり着くとノコギリ



のような鋭い口で皮膚に傷をつけ、血液中の水分を体表から排泄しながら血液を濃縮し、吸血前の体重の約6倍も血液を吸います。満腹になるまでに1時間以上かかります。乾燥に弱く、主な活動期は4~11月ですが、気温10℃、湿度60%以上であれば冬季でも活動します。

## ヤマビルの一生

ヤマビルの卵のうを見たことがありますか？ヤマビルには失礼かもしれませんが、親の姿からは想像できないきれいな卵のうです。まるで「森の真珠」です。卵のうから子ビルがふ化するまで約1ヶ月かかります。昆虫類の変態と異なり、卵から子ビルが直接誕生します。子ビルが成体になるまで3~4回の吸血が必要で、約1年かかります。吸血後、頻りに脱皮をします。一度満腹まで吸血すると、長いものでは約2年間の絶食に耐えられます。雌雄同体ですが、成熟した個体は吸血すると雌になり、雄と交尾することで約1ヶ月後に産卵することができます。一生の間に多くて8回吸血し、平均5~6個の卵が入っている卵のうを20個以上産むので、1匹の親ビルから約100匹の子ビルが産出することになります。ふ化率は高く、初期の死亡率が低いため、約10%が成体まで生き残ります。平均寿命は2年ですが、最長は5年です。

## ヤマビルの増加の原因

房総丘陵のヤマビルは30年ほど前まで、ごく限られた地域にしか生息していませんでした。しかし、1975年ごろから徐々に増えだし、今日では内浦山、清澄山、元清澄山など、房総丘陵に広く分布しています。ヤマビルの大量発生は農林業などの野外作業はもとより、地域住民の日常生活、さらには観光客の探勝にも深刻な影響を及ぼしています。では、なぜヤマビルは急激に増加したのでしょうか。

房総丘陵のニホンジカとヤマビルの分布域の推移を図-1に示します。図-2にニホンジカの生息数の推移を示します。ニホンジカの分布及び生息数は禁猟による保護によって、1980年代の中頃から急激に拡大及び増加しました。ヤマビルの分布域も1980年の中頃から急激に広がっています。ヤマビルの増加は、ニホンジカの分布の拡大と生息数の増加とほぼ一致して起こっています。両者の間にはかなりの相関が見られます。

ヤマビルの栄養源は動物の血液ですが、自力で吸血することができません。寄主動物に相当の血圧と血液量がないと、ヤマビルは十分に血液を吸うことができません。ニホンジカ以外にもヤマビルの寄主動物としてアナグマ、イノシシ、キョン、タヌキ、ニホンザル、ノウサギなどが確認されていますが、ヤマビルにとってニホンジカは好適な寄主動物であり、また、運搬者であることが証明されています。

ヤマビルの有力な天敵は、まだ発見されていません。また、スギやヒノキ人工林の手入れ不足によって、林床は暗く湿気が多く、乾燥を嫌うヤマビルにとって快適な生息環境になっています。ヤマビルにとっては、繁殖するための好条件が当分続きそうです。

## 被害を防ぐには

ヤマビルは足下からのぼってくるため、履き物にヒル除け用の薬をスプレーすることで防除します。長靴の場合は薬が落ちてしまうので、布を巻いてから濃い塩水または薬を付けてください。また、濃い塩水に漬けてから乾燥させた「塩靴下」を履くことも大変有効です。おすすめします。

万が一吸血された場合、人への病原菌の感染は心配ありませんが、血液を固めない作用のある「ヒルジン」という物質を出すため、なかなか出血が止まらない傾向があります。ばんそうこうなどで応急手当をして、傷口からのばい菌の侵入を防いでください。



図-1 ニホンジカとヤマビルの分布域の推移

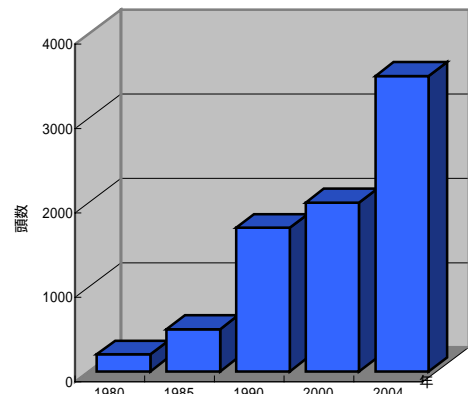


図-2 房総半島のニホンジカの生息数

# 千葉演習林ボランティア第4回活動の報告

ボランティア 藤田 貴樹

8月26日より27日まで、第4回目のボランティア活動に参加いたしました。

1日目は清澄作業所管内にある本沢林道沿いにある歩道の修理が行われました。歩道の修理という作業は初めての体験なので、どういふことをするのかとても楽しみでした。まず落ち葉を谷の方へよけてから、路肩をクワで少し削って滑らかにし、道であることがはっきりわかるように仕上げていきました。また、急な傾斜のところにはその辺の丸太を利用して階段を設置しました。山道はこうして造られていくのだなということが実感できました。途中、スズメバチがよく飛んでいたのですが、それもそのはず、歩道近くのミツバチの巣を攻撃していました。また、ヤマビルという、人間の血を吸う動物に血を吸われないようにしながら作業をしました。吸われて、自分でも想像していないくらいの血が流れました。



予定のコースを修理して戻るとき、多少歩きづらくなっていた道が歩きやすくなっていたので、とても心地よい充実感を覚えました。また、山道に迷った経験のある僕にとっては道に迷う事がなくなるなと思いました。



2日目は郷台作業所のマツ苗畑の除草を行いました。第2回目のボランティアに参加したので、経験はあったのですが、やった後をみたら多少汚かったのでやり直しながら除草をしました。第2回るときよりも気象条件がよく、やりやすくてよかったです。休憩時間中に、



苗畑周辺に子ジカガが現れ、しばらく観察させていただきました。午後に1時間、相ノ沢スギ見本林や竹の生育実験跡地など、郷台作業所周辺の林内見学をはさんで除草作業の続きが行われました。全部を終わらせることは出来ませんが、大半を終わらせる事が出来てよかったです。マツ苗が無事に林内に移植される日まで生育してくれることを望みます。

# 千葉演習林ボランティア第6回活動のご案内

**日 時** 平成 16 年 **10** 月 **23** 日 (土)

**集 合** 清澄作業所 9:40

**解 散** 清澄作業所 16:00 頃

**内 容** 歩道修理  
クワなどを持って歩道を歩きながら、壊れているところや  
歩きにくいところを直します。

(天候により内容が変更する場合があります。)

**人 数** 9 名 原則として先着順  
(これまで歩道修理に参加していない方を優先する場合があります)

**持 ち 物** 活動要項をご覧ください。

**雨 天 時** 天気予報により、中止の場合は前日の 15 時 ~ 17 時に参加予定者に連絡をします。  
上記の時間帯に連絡の取れない方は、直接演習林に電話等でご確認ください。

**受付期間** 9 月 27 日 (月) ~ 10 月 15 日 (金)

**申込方法** 電話、FAX、E-mail のいずれか

## 申込、お問い合わせ先

東京大学千葉演習林天津事務所

企画調整係 村川、相川

TEL 0470 - 94 - 0621 FAX 0470 - 94 - 2321

E-mail [chiba@uf.a.u-tokyo.ac.jp](mailto:chiba@uf.a.u-tokyo.ac.jp)



次の活動は秋の一般公開です。毎年非常に多くの方が猪ノ川溪谷の紅葉を見学しに来られて対応に大忙しですので、ぜひ今から予定に入れておいてください!

日程は以下の通りです。

11 月 23 日 (祝)、27 日 (土)、28 日 (日)

12 月 4 日 (土)、5 日 (日)

---

千葉演習林ボランティア通信 No.4 2004/09/15 発行

東京大学千葉演習林

〒299-5503 千葉県安房郡天津小湊町天津 770

TEL 0470 - 94 - 0621 FAX 0470 - 94 - 2321 E-mail [chiba@uf.a.u-tokyo.ac.jp](mailto:chiba@uf.a.u-tokyo.ac.jp)

ホームページ <http://www.uf.a.u-tokyo.ac.jp/chiba/>

現在の千葉演習林ボランティアへの登録人数は 30 名です。千葉演習林ボランティアに参加するには登録が必要です。申込方法はホームページをご覧ください。担当までお問い合わせ下さい。